

北海道浮魚ニュース

令和4(2022)年度2号

2022年4月28日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

【URL】 http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎第1回日本海スルメイカ長期漁況予報発表される

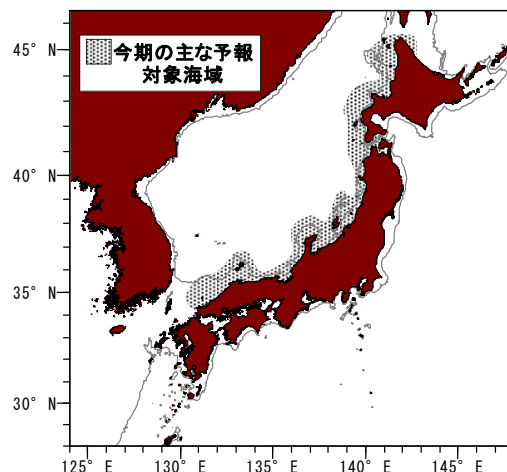
4月28日、第1回日本海スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は本州各府県を主な対象とした漁期前半(5月~7月)の予報です。なお、この予報は国及び日本海側道府県の水産研究機関が参画し、水産研究・教育機構がとりまとめを行いました。詳細は水産研究・教育機構(<https://www2.fra.go.jp/>)および「我が国周辺の水産資源の現状を知るために」(<http://abchan.fra.go.jp/>)のホームページからご覧になれます。

今後の見通し(2022年5月~7月)

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海沿岸域
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：前年を上回り、近年平均並
(2) 漁期：近年同様、漁場：本州北部日本海以北

※近年とは最近5年間(2017年~2021年)、
本州北部日本海以北とは石川県以北



- 2022年4月に実施したスルメイカ新規加入量調査の結果では、今期漁獲対象になると予測される外套背長5cm以上のスルメイカの1調査点あたりの採集尾数は10.0尾で、前年(3.4尾)および近年平均(6.4尾)を上回った。
- 2021年10月~11月に実施したスルメイカ稚仔調査Iでは、親魚量の指標となる幼生の分布密度は、2020年を下回り、過去5年(2016年~2020年)平均を上回った。また、2021年調査で採集された幼生のうち、外套背長1mm未満のおおよそ孵化直後と考えられる個体の分布密度は2020年と同数であった。
- 2022年度第1回日本海漁況予報では、スルメイカの漁場形成に影響を与える4月中旬~6月の対馬暖流域の表面水温は平年よりも「やや高め」、50m深水温は「平年並み」と予測されており、2019年以降、同様の傾向が続いている。
- 2021年8月~12月の小型いか釣り等によるスルメイカ(生鮮)の漁獲量は、西部日本海で2020年および過去5年平均を上回り、特に産卵期の10月に漁獲が多かった。また2022年1月~3月の漁獲量は、本州北部日本海および西部日本海で前年および近年平均を下回った。
- 2021年のスルメイカ稚仔調査Iの結果(特に外套背長1mm未満の孵化直後の幼生個体数)および同年10月の西部日本海の漁獲状況から、産卵場に来遊した親魚が多かったことが示唆された。また、2022年4月のスルメイカ新規加入量調査において外套背長5cm以上のスルメイカが

前年および近年平均よりも多かったことから、今期（2022年5月～7月）の日本海沿岸域への来遊量は低調であった前年を上回ると考えられる。一方、2019年以降、沿岸域への来遊は不安定であることも多く、2022年の漁期前分布調査でも北上する群を確認できていないことから、近年平均を上回るほどの結果を得られておらず近年平均並と考えられる。

今後の北海道日本海へのスルメイカ来遊状況に関しては、函館水試調査船金星丸により実施する5月下旬の日本海北上期調査および6月下旬の日本海漁場一斉調査の結果も参照して下さい。また、漁期後半については7月に第2回日本海スルメイカ長期漁況予報が発表される予定です。その他の情報とともに、随時浮魚ニュースでお知らせします。

（函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）